

会 告

第 89 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和50年 1 月17日（金）

本会は第89回講演大会を昭和50年 4 月 4 日（金）、5 日（土）、6 日（日）の 3 日間東京大学（東京都文京区本郷7-3-1）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和50年 1 月17日（金）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1 講演につき講演15分、討論 5 分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が 2 枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承ください。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（次ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は（A）、（B）とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、前号（14号）クリーム頁末添付）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和50年 1 月17日（金）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
（社）日 本 鉄 鋼 協 会 編集課

講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属材料	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄・鑄鋼	分析	試験・検査技術	計自動制御	IE 一般技術	その他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より 20 日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 95 円, 20 枚 215 円, 40 枚 375 円

10 枚 135 円, 25 枚 270 円, 50 枚 500 円

15 枚 190 円, 30 枚 295 円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

- 2 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

- 3 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 編集課

昭和 50 年度第 90 回(秋季)講演大会案内

1. 期 日 昭和 50 年 10 月 1 日(水), 2 日(木), 3 日(金)

2. 場 所 北海道大学

昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会 (北海道大学開催) に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。なお、本討論会申込用紙は会告末に添付されております。

1. 討論会テーマ

1) 高炉内における装入物とガスの分布について

座長 島田 俊作

高炉操業に於て適正な装入物の分布が得られれば、炉内に於けるガス流れを適正となり良好な高炉操業成績を得ることが出来る。近年ムーバブルアーマー、ポールウルス式装入装置などの新しい装入物分布調整装置が開発されるとともに、炉内に於ける装入物とガスの分布を明らかにするための検出端を導入され、炉頂部に於ける装入物とガスの分布の制御技術は格段の進歩を遂げたといえる。

しかし炉内に於ける適正な装入物とガスの分布は、炉頂における分布制御のみで十分とするか、現在どのような問題点が残されているか、を討論し今後の指針を得たい。

2) ESR 法の精錬と鋳塊の品質

座長 井上 道雄

ESR 法は周知のごとく一種の特殊精錬法というべきもので精錬の立場からのみならず、積層凝固による鋳塊の特性という観点からも材質の向上に期待されるところが大きい。1973 年わが国において ESR 国際シンポジウムが開かれ、この分野の基礎的研究面にも多くの関心が高まつてきたと思われる。この機会に ESR に関する諸問題を把握し将来の発展の基礎づくりをしたいと考えているので、精錬反応の物理化学 (電気化学的特性、凝固過程を含む) 非金属介在物の挙動などに重点をおいた講演を期待する。

3) 圧延 (熱間および冷間) における潤滑の諸問題

座長 鈴木 桂一

圧延油を主体とした圧延の潤滑については、多くの未解決の問題があり、圧延条件がきびしくなるに従い、さらにその問題は複雑化して来る。

今回は、圧延油そのもの、圧延油の供給方法、あるいはそれらの設備などについて討論会を開きたいと思います。パーム油によるダイレクト圧延から、鉱油ベースのミルクリー用圧延油にいたる冷間圧延用圧延油、最近活発に使われはじめた熱間圧延用圧延油、すべてを対象にしております。奮ってご応募下さい。

4) 高温における加速酸化

座長 染野 檀

高温における加速酸化に及ぼす諸因子は非常に複雑多岐にわたり、そのため試験法も確立していない状態であります。

この討論会では、i) 試験法、試験条件と耐酸化性の評価、ii) 新しい耐酸化、耐熱材料、iii) 加速酸化機構、などについての実験的研究、従来の研究結果に対する検討、あるいは新しい提案など多数の発表と活発な議論の展開を期待しています。

2. 申込締切日 昭和 50 年 2 月 10 日 (月)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙 (クリーム頁末) に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 50 年 5 月 12 日 (月)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含め 6700 字) にタイプ (12 点) 印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 61 年第 9 号 (昭和 50 年 8 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 61 年第 10 号 (9 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 50 年 9 月下旬

前記第 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

第 89 回 (春季) 講演大会 討論会 開催案内

昭和 50 年 4 月 4 日～5 日開催の第 89 回 (春季) 講演大会における討論会は次の通りとなりましたのでご案内いたします。なお本討論会の概要は次号 (2 号) に掲載いたします。

I コークス性状の高炉操業に及ぼす影響 座長 中 村 直 人

1) コークス性状のレースウェイにおよぼす影響

新日鉄基礎研 近藤 真一, 中村 正和, 杉山 喬, 鶴野 建夫

2) 和歌山第一高炉での成形コークス使用試験

住金本 社 赤松 経一, 中技研 羽田野道春

〃 和歌山 神田 良雄, 〇河合 晟, 淡路 宏, 山下 良一

〃 鹿 島 岡村 祥三

3) 操業解析から見たコークス性状の高炉操業におよぼす影響について

鋼管本社 村上 惟司

II 連铸鑄片の表面性状 座長 浅 野 鋼 一

1) 連続鑄造スラブ表面疵発生原因および防止法について

鋼管京浜 角南英八郎, 〇山上 諄, 技研 撰待 吉雄

2) 連铸スラブの表面欠陥防止のための 2 次冷却パターンについて

川鉄技研 〇野崎 努, 松野 淳一, 村田 賢治, 大井 浩

〃 水島 兎玉 正範, 斎藤 達

3) 薄鋼板用連铸低炭素アルミキルド鋼における表面性状の改善と鑄片手入の省略について

新日鉄名古屋 井上 俊朗, 〇小舞 忠信, 竹村 洋三,

岡 賢, 加藤 郁

III 大型鋼材の熱処理 座長 田 中 実

1) 極厚低合金鋼板の製造時の熱処理について

新日鉄名古屋 高石 昭吾, 斎藤 晟, 〇中尾 仁二,

川合 亜之, 山場 暁太, 間淵 秀里

2) Mn-Ni-Mo 極厚鋼板の熱処理条件と靱性

川鉄技研 〇榎並 禎一, 佐藤 新吾

3) 大型鍛鋼軸材の熱処理

日鋼室蘭 川上 辰男

4) 中実および中空円筒の焼入変形の解析

石川島播磨技研 〇利岡 靖継, 雑賀 喜規

IV 低温用鋼の組織と機械的性質 座長 荒 木 透

1) ($\alpha + \gamma$) 領域加熱焼入処理による Ni 含有鋼の低温靱性向上の原因

鋼管技研 〇山田 真, 新倉 正和, 田中 淳一, 市之瀬弘之

2) 高 Mn-Cr オーステナイト鋼の組織, 低温靱性および熱膨張率について

新日鉄八幡技研 〇吉村 博文, 清水 高治, 矢田 浩,

八幡 山田 直臣, 製品研 本間 弘之

3) Fe-Ni-Mn-C 系オーステナイト鋼の変形による組織の変化と伸び, 靱性の関係

川鉄技研 〇鈴木 重治, 船越 督己

昭和 50 年度塑性加工春季講演会

開 催 日: 昭和50年 5 月14日～16日

講演申込締切: 昭和50年 2 月 9 日 (土)

共催: 日本塑性加工学会, 日本機械学会 協賛: 日本鉄鋼協会, ほか

会場: 機械振興会館

(港区芝公園3-5-8 東京タワー前)

電話 03-434-8211)

講演申込要領:

はがきに横書きで「昭和50年度塑性加工春季講演会申込」と標記し, 下記の要領でお申し込み下さい。

記

①題目及び分野別番号, ②概要(50字以内), ③所要時間(20分以内), 但し当学会で調整することがあります。④スライドの有無, 所属学会名, 会員資格氏名

(連名の場合は講演者に * 印を記すこと), ⑥勤務先,

⑦通信先

申込先: 日本塑性加工学会 (〒106 港区六本木5-2-5 トリカツビル)

講演論文集: オフセット印刷, 1292 字詰原稿用紙 4 枚 (図表を含む), 刷上り 4 ページ相当, 詳細執筆要領, 原稿用紙は後日講演者にお送り致します。

論文集原稿締切: 昭和50年 3 月15日 (土)

分野別番号: 1. 理論及び弾塑性解析, 2. 計測及び材料試験, 3. 材料及び挙動, 4. 工具, 5. 潤滑, 6. 加工機械, 7. 圧延, 8. 押出, 9. 鍛造, 10. 引抜き, 11. せん断, 12. 板材成形, 13. 転造, 14. 矯正, 15. 表面加工, 16. 高速加工, 17. 高圧加工, 18. 接合, 19. プラスチック, 20. ロール成形, 21. スピニング, 22. その他

第 31・32 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— テーマ：鉄鋼の電子論と新しい構造解析 ——

主 催 日 本 鉄 鋼 協 会

第31・32回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。

- I. 開催場所**
- 第 31 回（東京）昭和 50 年 2 月 13 日（木）、14 日（金）
 農協ホール（千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階）
- 第 32 回（仙台）〃 2 月 27 日（木）、28 日（金）（予定）
 東北大学金属材料研究所

II. 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~12:00	電子論入門（固体、融体の電子）	東北大学工学部	田 中 実
	13:00~15:00	鉄中の電子（弾性、磁性、伝導性、合金化合物の電子）	名古屋大学工学部	安 達 健 五
第 2 日	15:00~17:00	陽電子消滅の鉄鋼への応用	東京大学工学部	堂 山 昌 男
	9:30~12:00	鉄鋼の構造解析とメスバウア効果	大阪大学基礎工学部	藤 田 英 一
	13:00~14:30	低エネルギー電子線におけるスペクトロメトリ	学習院大学理学部	村 田 好 正
	14:30~16:00	中性子線回折の応用	東京大学物性研究所	伊 藤 雄 而

III. 講演内容

電子論入門（固体、融体の電子） 田 中 実

鉄属の金属のみならず、広く金属全体の特徴である導電性、展延性あるいは良伝熱性といった性質について、原子論的立場から理解してゆくために、それ等に対して主役を演ずる金属内電子系の主要な特性について解説する。結晶常態に対して、熔融状態での電子系の特性、構造敏感な性質にもふれるが、簡単なアルカリ、アルカリ土類金属と鉄属との比較を中心に、今回の各講演題目へのいとぐちとなるようにしたい。

鉄中の電子 安 達 健 五

1. 鉄原子の電子状態と金属鉄の電子エネルギー — エネルギーバンドの構成 —
2. 鉄のエネルギーバンドと物性 — 磁性、電導性、熱的性質 —
3. 鉄の凝集エネルギー — 体心立方鉄と面心立方鉄、弾性 —
4. 鉄合金の物性、鉄を含む化合物の物性

陽電子消滅の鉄鋼への応用 堂 山 昌 男

電子の反粒子である陽電子を鉄鋼など金属中に注入し、消滅による γ 線の角相関、エネルギー、スペクトル、陽電子の寿命をはかることにより鉄鋼および金属中の電子状態が研究できる。またこの方法は鉄鋼および金属中の格子欠陥に非常に敏感であるので、格子欠陥の研究として、たとえば鉄鋼中の原子空孔、転位、加工、照射損傷の研究の新しい手段として脚光を浴びてきている。また不純物原子、相変態、凝固、熔融状態の研究にも使われる。この他非破壊検査の新しい方法としての可能性も説明する。

鉄鋼の構造解析とメスバウア効果 藤 田 英 一

鉄鋼、その他の金属材料および化合物の組織、構造を解析する方法の一つとして、メスバウアー効果の有用性、特性、およびその限界を、特に X 線・電子線回折などの回折による方法と比較して説明する。後者の方法に比べて、メスバウアー効果は、短範囲の原子配列、局在的な電子構造、磁気的な構造などを見るのに適している。解析の方法実験の方法などに独特な点があるので、それらについて、鉄鋼を実例としてわかりやすく解説をする。

低エネルギー電子線におけるスペクトロメトリ 村 田 好 正

低エネルギー電子のスペクトルは固体の表面的構造、電子状態などの研究、表面での分析に有用な方法であるが、それはどのようなものか、どのような特色があるか、またどのような結果が得られているかなどについて述べる予定である。

中性子線回折の応用 伊 藤 雄 而

物質中の原子及び電子のさまざまな配置や動的な振舞いを実空間で見ようとする従来の構造解析に比べて、中性子散乱の方法では時空間のフーリエ変換を通して運動量・エネルギー空間、いわゆる $(\vec{q}, \omega)$ の世界でこれら原子相関を直接見ることができ、新しい構造解析の手段を提供している。それはミクロな物性の理解のみならず、マルテンサイト変態、水素の金属や拡散、格子欠陥等応用的立場からも重要な諸問題の基本的理解に役立ちつつある。

IV. 聴講無料（事前の申込みは必要ありません）

V. テキスト 2500 円

VI. 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」および「Transactions ISIJ」

広告掲載料金の改訂について

会誌「鉄と鋼」および「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」は内容の充実にとともに、会員ならびに購読者も増加し、発行部数も増刷を続けております。しかしながら最近における諸物価の上昇には著しいものがあり、現料金を維持することが困難となつてまいりました。

つきましては、昭和 50 年 5 月より、やむなく広告掲載料金を下記のごとく改訂いたしますのでお知らせいたします。なにとぞご了承のうえ今後ともよろしく本誌をご利用下さるようお願いいたします。

記

1. 鉄 と 鋼 (第61年第7号より)

表紙	2	1 ページ	105,000 円	表 2 対向	1 ページ	84,000 円
〃	3	1 ページ	90,000 円	前 付	1 ページ	77,000 円
〃	4	1 ページ	120,000 円	後 付	1 ページ	67,000 円
前付本文対向	1	1 ページ	84,000 円	綴 込	1 枚	105,000 円

2. Transactions ISIJ (Vol 15, No 6 より)

後付 1 ページ 77,000 円

※「鉄と鋼」ならびに「Transaction ISIJ」両誌とも上記料金の他に製作費実費頂戴いたします。

3. 広告取扱店 (株)協会通信社 東京都中央区銀座7-3-13 ニューギンザビル

〒104 TEL 03-571-8291

欧文誌「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」の月刊発行についてのお知らせ

本会では欧文誌 Transaction of The Iron and Steel Institute of Japan (Transactions ISIJ) を昭和50年 (1975 年) 1 月から月刊誌として刊行することになりました。本誌は昭和 36 年 (1961 年) に季刊で「Tetsu-to-Hagané Overseas」として創刊後、昭和 41 年 (1966 年) より現在の名称に改め、隔月刊となり今日にいたつたものであります。

最近本誌への投稿原稿数が増加しております。これは国内、国外からの投稿によるものであることはもちろん、本会の共同研究会をはじめ各研究委員会への成果発表の働きかけなどの編集活動の強化の現われと考えられます。

とくにわが国の高い鉄鋼生産技術に関係した学術、技術論文、Review 論文などは広く国際的な注目を集めています。編集委員会は今後も積極的にこのような記事の掲載につとめまいります。

本誌の海外読者は発刊以来着実に増加しており、掲載論文の引用される機会もしだいに増えてきております。これらは本誌が国際誌としての評価を高めていることを示すものと考えられます。

Transaction ISIJ を月刊誌とするにあたり、ますます本誌の権威を高め、サーキュレーションをより広めるための活動を積極的に推進する方針であります。このために、斬新な優れた Original Paper を多数掲載する必要があります。会員各位が研究成果を奮つてご投稿下さることを期待しております。

本会では「鉄と鋼」と「Transactions ISIJ」の両誌を希望される会員に限り「特別料金」を設けておりますので、月刊誌移行を機に新たに「Transactions ISIJ」をご愛読いただくことを合せて期待いたします。

なお、本誌の印刷作業の簡素化のため図面 (含写真) は著者が提出した原稿をそのまま整版いたしますので、別記に従つて原稿の作成をお願いします。

図面ならびに写真原稿の作成について

1. 著者の提出した図面原稿をそのまま整版するので、すべての文字、数字記号は「lettering set」か「press-on (wax-back) lettering」を使つて黒で鮮明に書く。手書き原稿は採用しない。
2. 図面は所定の用紙 (21 cm×16 cm) を用いること、またはこれに準ずる大きさの glossy prints で提出してもよい。
3. 図面の墨入れは、たとえば 21 cm×16 cm の図では太線を 0.5 mm~0.4 mm、細線 0.2 mm、文字の高さ 5 mmを標準とする。文字は 18 ポイントボールドを使用する。タイプ文字は使用しないこと。
本図は刷上り 11 cm×8 cm (250 words に相当) に縮尺される。
4. グラフは四方枠入れをし、図中適当な目盛線を入れる。両軸には変数の名称、記号、単位をつける。
5. 写真は原則として原寸とし、数葉をもつて 1 写真とするときは余白なくきちんとはり、写真中に a, b...などの記号をつける。
6. 1~5 に従わない原稿は書き直しを求めることがある。

石原・浅田研究助成金交付研究決定のお知らせ

石原・浅田研究助成金交付については昨年5月会誌第6号会告により候補研究を募集し多数の応募がありましたが研究委員会での選考を経て下記の通り候補研究を決定しましたのでお知らせします。

記

鉄基合金の凝固時における溶質の再分配機構と介在物生成について

研究代表者 梅田 高照君（東京大学工学部金属工学科助教授）

共同研究者 加藤 寛君・鈴木 俊夫君（東京大学工学系大学院）

弗化物・酸化物混合系融体の物性と反応に関する研究

研究代表者 新明 正弘君（北海道大学理学部助教授）

電気化学的手法を用いたスラグ-メタル間反応の速度論的研究

研究代表者 永田 和宏君（東京工業大学工学部金属工学科大学院）

共同研究者 後藤 和弘君（東京工業大学工学部金属工学科助教授）

溶融スラグの構造と物性に関する基礎的研究

研究代表者 早稲田 嘉夫君（東北大学選鉱製錬研究所助手）

超高純度鉄を用いた鉄中の原子空孔ならびに炭素、水素の挙動の研究

研究代表者 高木 清一君（東北大学金属材料研究所助手）

共同研究者 安彦 兼次君（東北大学金属材料研究所）

森谷 信義君（東北大学大学院）

第290回座談会

複合材料の現状と将来

日時 昭和50年4月24日(木) 13:00~17:00

会場 ダイヤモンドホール

(ダイヤモンドビル10階)

東京都千代田区霞が関 1-4-2

協賛 日本鉄鋼協会、ほか

次第 [司会 東京工業大学 中村 正久]

1. 話題提供

(1) 複合材料の現状と将来

京都大学 村上陽太郎

(2) Advanced Composite の現状と将来

航空宇宙技術研究所 古田 敏康

(3) NASA における複合材料の開発状況

金属材料技術研究所 高橋仙之助

(4) 金属強化用繊維の現状

東芝会社 森田 幹郎

(5) ウィスカーの現状と将来

東京大学生産技術研究所 大蔵 明光

(6) 一方向凝固法による複合材料について

東京医科歯科大学 三浦 維四

(7) 複合材料の界面について

東京大学宇宙航空研究所 小原 嗣朗

(8) 複合材料における力学的諸問題

東京大学宇宙航空研究所 河田 幸三

2. 討論 16:00~17:00

定員 100名 (先差順により満員になりしだい締切ります)

参加費 無料

資料 (未定) 円

申込方法 会員1名ごとに B6判 (会誌半裁) 用紙に「第 回座談会申込み」と題記し、(1)勤務先、名称、所在地、(2)通信先、(3)氏名(ふりがな)会員資格をご記入の上、下記あてお申込みください。参加決定者には締切後参加券をお送りします。

申込締切 昭和50年4月11日(金)

申込先 日本機械学会

(東京都渋谷区佐々木2丁目4番9号
三信北星ビル5階)

技術資料紹介

当協会共同研究会計測部会では、昭和49年9月1日付の熱電対と補償導線のJIS改正に伴ない、その実施に当たつての移行手順をまとめて、このたび「新温度標準実施検討グループ報告書」を刊行いたしました。

内容は鉄鋼業を対象としたものでありますが、一般の計測担当者にも有効に利用いただきますようご案内申し上げます。

書名 「新温度標準実施検討グループ報告書」

内容 I. JIS改正の内容、II. JIS改正の影響、III. 移行の手順、IV. 計器の改造について、
V. メーカーのアンケート結果、VI. その他

価格 2,000 円

申込方法 書名、部数、送付先を明記の上代金を添えて、現金書留にてお申込み下さい。(送料本会負担)

申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階

日本鉄鋼協会 技術部 TEL (03) 279-6021